

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット2階)

事業所番号	2792200228		
法人名	有限会社さざなみ		
事業所名	グループホームさざなみ大池橋		
所在地	大阪市生野区中川西2-26-5		
自己評価作成日	平成29年4月17日	評価結果市町村受理日	平成29年6月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成29年4月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>現在の高齢者社会における、認知症高齢者の担い手として日々の実践の中で、お一人、おひとり様と向き合うことの大切さ、その人らしい暮らしが出来るよう支えていくという志のもと、日々の業務に取り組んできました。認知症をかかえていても、その方の可能性や役割を果たす喜びや、地域社会と関わり大切にしたいと再確認し、利用者様主体とした生活支援を進めていきたいと考えます。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>鉄骨造りの大きな5階建ての2~4階を占め、3ユニットであるが現在は2~3階の2ユニットで営業しており、4階のユニット入居者を募集中である。1階には小規模多機能型居宅介護が入り、5階は職員用の多目的空間となる予定である。開設してまだ2年にしては、地域との交流はよく出来ている。自治会長や民生委員もごく近くに生まれ、当ホームの運営に理解がある。地域の行事に参加したり、当ホームからも玄関でオープンカフェを開いて地域住民を招待して交流に努めている。又、入居者に対しては食育に力を入れ、配食業者は入れず厨房専門の職員2人で、入居者の好みを把握し美味しい食事を提供し入居者や職員を喜ばせている。共用空間についても廊下が長く、厨房からは死角になって入居者の様子が掴みにくいため、ミラーを設置し全体の様子が分かるよう工夫している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	残された力で暮らす喜びを感じ、楽しく愛に溢れた暮らしが出来る様管理者と職員が日々の共有しております。	当ホームの運営理念を「1. 楽しく自由にありのままに 2. 残された力で暮らす喜び 3. 家庭的な愛に溢れた暮らし 4. 地域との交流と連携を図る」と定め、各階に掲示し、全体朝礼にて職員全員が唱和し、その実践に励んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に2回実施しているオープンカフェを通し、地域との交流をしております。	地域の行事でもある夏祭りや小学校のイベント(桜祭り、盆踊り、運動会)にも参加して交流している。ホームもオープンカフェを月2回開催し、地域住民を招待している。幼稚園児との交流やボランティアも受け入れ楽しんでる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、中川地区の町会長様や、地域包括支援センターの担当様へ、日々の生活の報告をしております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議では、これまでの当地区での災害時の対応時や対応方法や、緊急避難場所等の話し合いを行い、活かしております。	開催日を奇数月の第3金曜日とほぼ決め、年6回開催している。双方の意見交換会となっているが、メンバーに利用者や家族および見守者の出席が殆ど無い	利用者には家族のいない方が多いが、利用者や家族も重要なメンバーであり、議事録を送るかあるいは会議当日イベントを行い家族を招待等して参加して頂く工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当施設から区役所への書類提出の際には、当施設の担当者に不明点を確認する等を行い、協力関係を築くように配慮しております。	生活保護を受けている利用者も多いので、区保健福祉課にはよく訪問して相談事によって貰っている。利用者については、介護度も変更になるケースもあり、介護保険課とも連携をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護職員に対し、身体拘束基準の把握に努め、日々の日常生活を管理職も見回りを行っています。 事故防止の観点から玄関の施錠をさせて頂いておりますが、外出などのご希望があれば、すぐに対応させて頂いております。	毎年1度は身体拘束の弊害について具体的な例を挙げ内部研修を徹底し、職員はよく理解している。現在は身体拘束例は無い。グループホームから1階の小規模多機能施設への移動は施錠しているが、見守りケアに徹している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設の各フロアには、リビングと廊下に対しての防犯カメラを設置し、虐待防止に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターの担当者様とも相談をし、個々の利用者様が成年後見制度の必要性を行っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際には、契約書や重要事項説明書の内容をご入居者様やご家族様に説明し、不安や疑問点にお答えさせて頂き、ご理解して頂けますよう配慮しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置 ご家族様が面会に来られた際や、お電話でお話の際に、ご意見を伺っております。	意見箱を設置しているが、入った例は無い。利用者からはリラックスされている時(居室内や入浴時)に聞き出している。家族からは訪問時や本人の状態を月1回送った時に意見や要望をもらったりしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やリーダー会議等で、意見や提案を聴く機会を設け、働きやすいより良い職場になるように配慮しております。	毎月1回の職員会議で、日ごろ考えている事や提案を発表して貰っている。管理者による個別面談も年2回あり、意見や提案を聞く機会も設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者はご利用者様と共に生活している介護職員の意見を、出来る限り現場に反映できるよう、個人面談などで聞かせて頂いております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回、職員研修の機会を設け、職員同士が発表の機会を持つことができるように検討しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は、同法人のグループホームにて、管理者同士が情報交換をできる場をもっております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	当施設に入所される際には、ご家族様や、前ケアマネ、ソーシャルワーカーへご本人様の希望を確認し、利用者様に合った安心確保に努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込書を準備し、ご家族様の不安や要望を記入して頂き、ケアプラン作成の際にも反映させております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応の必要事項の判断として、初期段階にキーパーソンとなる方や、ご家族様やご本人様と時間をとり、ご要望をお聞きしております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人と人との繋がりを大切に、普段の生活の中で暮らす者同士支えながら生活をして頂いております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設や地域のイベント等にはご家族様に声掛けを行い、ご利用者様と一緒に時間を過ごして頂ける様、努めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣のスーパーや、公園、商店街への外出の機会を持ち、これまでの馴染みの場所の継続を図っております。	友人・知人、近隣の飲み友達が見舞いを兼ねて稀に訪問してくれている。1階の小規模多機能型居宅介護施設とは、よく一緒にレクリエーションをするので、その利用者との関係になりつつある。馴染みの場所としては、コリアンタウンや美容院があり、個別に対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が共に助け合い、支え、職員は理解に努め、利用者様が孤立しない様支援しております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様のご意向があれば、ご入居者様のご希望、ご家族様のご要望に沿うようつとめさせていただきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	施設の利用者様同士の共同生活の範囲内になりますが、ご本人様やご家族様を通じて、暮らし方の希望や意向の把握に努めております。	利用者の思いや意向を把握するには、その方の人生歴や楽しみごとを把握しておく必要性があり、それに沿って思いや意向を聞き出す努力をしている。入居して長くなると、職員がお互いに絆ノートに利用者の現在の思いや意向を聞いて記入し、ケアプランに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、前ケアマネやケースワーカーや地域包括のケアマネ等から、生活歴や既往歴を聞き取りさせて頂いております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日々の状態を把握し、総合的に見つけ、本人の出来る力を暮らしの中発見できる様努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人を知り、その人に合ったプラン作成し、アセスメントとモニタリングを繰り返しながら、より良い環境で暮らして頂ける様努めております。	本人本位のケアプランを立てるためには、家族の要望や本人についてのあらゆる情報を集めサービス担当者会議を開いて立案している。モニタリングは毎月、ケアプランの変更性については短期で3ヶ月ごと、長期は6ヶ月ごとに行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様ごとのバインダーを制作し、日々の様子やケアの記録をして、介護計画作成の際に活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様やご家族様の要望であれば、その都度、職員同士で検討して、実現の可否を話し合うようにしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣に住まれている方が、当施設に入所している方が多い為に、これまで馴染のある美幸森公園、美幸森神社、商店街、近隣のお店の店員様との繋がりを大切にしております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは、24時間のオンコール体制の契約を結び、利用者様との信頼に繋がるとような体制を築いております。	利用者、家族の納得と同意を得て協力医療機関をかかりつけ医としているが、入居前のかかりつけ医の継続受診も支援している。かかりつけ医とは24時間体制の受診支援が整っている。内科は週2回、歯科、眼科は月2回の往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在は訪問看護ステーション24時間、看護が受けられる契約をしており、看護師から医師への連携体制にも配慮しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様が入院した際には、管理者が病院までお見舞いに伺い、病院のソーシャルワーカーへ情報提供を頂き、退院後の対応に備えております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には、必ず、主治医と看護師とご利用者様やご家族様と話し合い、現在の病状から今後の方針を決めております。その際には、ご家族様への心理的負担を考慮して対応しております。	事業所として重度化や看取りに対して可能な限り対応していく方針であるが、医療ニーズが大きく入院を希望したい場合は尊重している。看護師によるターミナルケアの勉強会も日頃から実施している。重度化した場合は家族、医師、職員で今後の方針を決めている。過去に1例の看取り経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時には、職員から管理者や看護師へ、連絡が取れる体制をとっております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策の訓練の際には生野消防の消防隊員に来設して頂き、直接職員へ火災、地震、水害等をして頂いています。	年2回、消防署の指導と自主訓練で夜間想定避難訓練を実施している。自動火災報知機、スプリンクラー、誘導灯及び誘導標識の設置はされている。災害時の備蓄の準備はされていない。地域住民との協力体制の構築が今後の課題である。	日頃の避難訓練と研修がいかに大事であるかを理解して、近隣住民と一緒に訓練を行うなどして、相互防災協力体制を確立することが望まれる。火災だけでなく、地震、風水害に対しても入居者の安全を確保する何らかの対策も望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様の立場に立って、受入れ、認め、癒す気持ちで優しく言葉かけをさせて頂いております。	職員ひとり一人が研修や勉強会を通じて意識の向上に努めている。リーダーを中心にフロア会議をして、そこで出た話は必ず「フロア会議の書式」に残すようにしている。さり気ない会話の中で出た情報は「絆ノート」に記入し職員間で共有している。大事な書類は鍵のかかる書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が着る服は、ご本人に選んで頂いたり、希望される献立やおやつ等を、職員から聞き取りをしてご要望に応じております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お食事を摂られる際にも、画一的な時間にするのではなく、ゆっくり召し上がる方や早く召し上がる方の双方の生活習慣に対応できるように努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	画期的に、職員によるお化粧品療法等を行い、利用者様が鏡を見る機会を設け、その人らしさを図っております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、施設内で調理を行い、出来る限り配膳や食器洗い等のお手伝いをして頂いております。	食育に力を入れているホームで四季折々の旬の食材と献立を調理専門の職員が、買い物から調理まで担当し、昼食、夕食に美味しい食事を提供している。毎月1, 2回は利用者同士で好みの献立を決めて、買い物から調理の一連の作業をそれぞれ参加できる範囲で一緒に作る楽しい日がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食べる量や水分摂取量を利用者様お一人お一人の記録を残し、その記録を元に看護師へ報告しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に1回、訪問歯科が来設されて、歯科衛生士による口腔ケアを行い、口腔内異常の早期発見、義歯の取扱いに注意しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様お一人お一人の排泄パターンや排泄リズムを把握する為に、排泄チェック表への記録を残し、トイレ誘導しております。お一人お一人の排泄リズムの把握に努め、自立に向けて誘導しております。	排泄チェック表で利用者個々の排泄パターンを把握している。水分補給と声掛けをまめにトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。布パンツとリハビリパンツ使用者は全体の半々である。利用者は館内で自主歩行に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に、排便のチェック欄を設け、ご利用者様の排便の記録も残しております。看護師と排便日数を確認し、十分な水分補給を心がけております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夏や冬等の季節により入浴時間の変更を行い、その方の希望により入浴を楽しんで頂いております。当日の利用者様の体調により、足浴、足湯等の対応しております。	入浴は週2回を基本としているが利用者の希望には柔軟な対応をしている。2方向介助のできる浴槽で毎回お湯は替え、個々の好みの時間帯と湯加減で1対1の入浴支援をしている。入浴拒否の利用者には無理強いせずコミュニケーションをとるようにして、本人の気持ちを大事に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間を画一的に決めず、個々の利用者様の睡眠リズムへの配慮をしております。昼夜逆転の生活へも配慮し、夜間職員も支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様が生活するフロアに、お薬情報ファイルを設置し、各職員が薬の内容を把握できるように努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや調理の配膳等の役割を持って頂いたり、公園やスーパーや喫茶店等の外出の機会を設けることで、気分転換を図っております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	当施設の裏手にあります「明生座」という芝居小屋に利用者様と職員で参加する等の支援を行い、ご利用者様のご希望に沿うよう対応しております。	天気の良い日にはコリアンタウンや市場、近くの公園へ散歩をしている。そこではよく馴染みの知人との出会いもある。花見の時期にはお弁当持ちで出かけたり、誕生月には好きな外食に出かけたり家族の協力で外食、墓参りなど出かける利用者もおられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方については、多少のお小遣いをお渡しし、お金の所持の支援をしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	皆が生活するリビングに、電話を置いており、電話の使用が出来るようにしております。お一人では電話機の使用が難しい方には、職員が支援をしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員と利用者様とで、廊下やリビングの共用場所を掃除する事により、連帯感が築けるように配置しております。 屋間にはカーテンを開けて、施設内に光を取り入れることで、季節感や刺激を取り入れております。	ホーム全体は適度な空間があり、ゆったりと広い。採光も良く明るい。壁には行事写真や毎日の食事メニューなどが掲示されている。キッチン是对面式となっていて、利用者の見守りが出来る配置となっているが、廊下が長く、見守りにくい箇所にはミラーを設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテーブル席に関して、ある程度の座る場所を設けていますが、誰でも、どの席に座ることができるように配慮しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	当施設に入所される際には、これまでのご自宅で使用されていたタンスや家具類を持ち込み、出来る限り住み慣れた部屋を心がけております。	各居室にはベッド、冷暖房、防炎カーテン、スプリンクラーが設置されている。利用者の身体状態により簡易トイレ椅子も置かれている。居室には馴染みの整理タンス、テレビ、仏壇、家族写真などが持ち込まれて、従来の生活が保たれた本人が暮らしやすいように整えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	きんりんには、「玉手」は「たんだ」等のスーパーや喫茶店、公園がありますので外出の機会を設けるよう配慮し、季節を感じて生活ができるよう努めてまいります。		